

は じ め に

京都市では、教職員の熱意あふれる教育実践の基、子どもたちの今と未来を見据えた、より確かな教育改革をめざして取組を進めてきました。その一つとして本センター研究課では、教育委員会関係各課と連携して学校教育の今日的課題の解決に向けた8本の研究テーマを設定し、研究を積み重ねてきました。そして、今後の教育課題に応えるために開発した小・中学校の先行的な実践授業の成果や、教員を対象にした調査結果を紀要としてまとめ、刊行することとなりました。

確かな学力の定着をめざした研究では、社会の様々な事象を多面的に考察することができる力をはぐくむために、思考活動と表現活動を意図的に繰り返し、自分の思いを再構成することに重点をおいた小学校社会科の実践研究を進めました。中学校理科では、生徒が様々な学習活動の中で自分の考えを伝え合い、お互いの考えのよさを見出しながら、共に高め合うことのできる言語活動の在り方について提案しています。

また、教育におけるICT活用の推進に向けて、小学校では、児童の学習意欲を向上させる手だてに焦点を当てて実践研究を進めました。中学校では、ICT活用の効果に焦点を当て、教育用デジタルコンテンツの作成とともに、それらを活用した複数の授業モデルを提示しています。

校種間の連携をめざした研究では、中学校第1学年英語科のカリキュラム試案作成と、その実践研究を進めました。これは、すべての京都市立小学校で小学校英語活動を実施していることを受け、そこで培われたコミュニケーション能力を中学校英語教育に生かすことをねらい、提案したものです。

さらに、自己の夢をつくりあげる力をはぐくむことをめざした生き方探究教育（キャリア教育）では、体験的な学習活動に重点をおき、各教科等の学習の中で「生きること」「働くこと」にかかわる学習活動を展開する指導の在り方を提示しました。そして、総合育成支援教育（特別支援教育）の実践研究では、個別の指導計画を活かして“学習指導支援の充実”と“仲間づくり”の充実をめざし、互いを尊重し、豊かな人間関係を築く集団を育成するために大切にしたい視点を提案しています。

調査を通じた研究では、若手教員が抱える悩みや困りを明らかにした上で、研修に対するニーズを把握し、今後の研修内容を検討する際の基礎資料を提示しています。

いずれの研究も、学校現場との密接な連携の基、求められている喫緊の教育課題に取り組んだものであり、各学校・園における教育活動及び教育計画作成に資する基礎資料として生かしていただけるものと思っております。

本市教育は、常に目の前の子どもたちの実態から出発し、子どもたちの豊かな学びと育ちを支える実践を追求して参りました。本研究紀要が「一人一人の子どもたちを徹底的に大切にする」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに精励されている先生方のお取組の参考に供するところがあればと願っております。

最後になりましたが、各研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成22年3月

京都市総合教育センター
所長 永田 和弘